

ボードゲーム好きにおくるチョイ読みペーパー

メビ"テン!"

2021.09
vol.12

TAKE FREE

ファミリー DE ボードゲーム!!

ちょっと聞いたヨ 子どもと遊ぶ

教えて!メビテンさま

カルカソンヌ日本選手権2021 日本代表決定!

カルカソンヌワールドカップ

まつながのふりかえりコラム



URLが変わりました

mebiten.jp



元保育士でドイツでも保育経験のあるKleeb-latt株式会社代表の畠です。

今回はファミリーでボードゲームを楽しく遊ぶコツやドイツ保育の話なんかをちょっと書かせていただきます。

このところのボードゲームの認知度の高まりによって子育てのおもちゃの1種類としてボードゲームを使われるご家庭も増えてきたかと思われます。

そんな中、全国色々な所でお母さん方からよく言われるのが「お父さんが本気になって子どもに勝つことで子どもが泣いてしまってゲームをやりたがらない」といった苦情?(笑)です。ほんと、お母さんからの訴えが多いのはまだ大人になりきれていない世の男性が多いからでしょうか。

やはり勝つ楽しさを知ってからでないと次に「もう1回やろう!」とならないので、子どもが小さいうちの基本は大人が上手に負けてあげる事じゃないでしょうか?

最初は大人が負けてあげて、何回かに1回は大人が勝って、その時は必ず直ぐにもう1回やって大人が負けてあげる。で、その負けた時に「こういう所をうまくやったから今日は勝てたね」などと言ってあけると、子どもたちはゲームの中で『負けることも



あるけれど、工夫すると勝つたり、うまくいったりする事がある』っていう事を学ぶんですよね。

これって人生においても大事な気づきじゃないかなーと思ったりします。そうやって理解した子どもたちは少々大人が本気を出して自分が負けても『もう1回やろう!』となるんじゃないかなと思っています。

後、子どもさんが小さいうちはどうしても大人はおつきあいになってしまって、1ゲームの時間が5分から10分くらいの短時間ゲームがお勧めです。兄弟などでやる場合は運の要素が高いゲームを選ぶことも重要かも知れませんね。

兄弟でやる場合はハンデをつけたりが必

要な時もあります、最初の1回は年

齢でハンデをつける事になる

かも知れませんが、勝った方にハンデをつけるシステムもいいかも知れません。ハンデの内容は大人が決めてあげるといいですが、さじ加減は結構難しいですね。

あからさまなハンデがちょっとなーという場合は子ども向けゲームの説明書を読んでください。『最近海賊船をみた人から始めます。』などというドイツ風ジョーク?(笑)の後に、『小さい(年下の)子から順に始めます。』と書いてあつたら先手番有利なことが多いので負けた子を先手番にして再度始めるのもいいですね。

それでもどうしても負けたら泣いてしまってやらなくなってしまうという時は協力ゲームがお勧めです。負けて泣いてしまう子は、まだ負けを一人で受け止められる心が育ててなかつたり、感受性が豊かで負けを重く受け止めすぎたりするので、そんな場

合は協力ゲームで全員が勝つか全員で負けるかといった感じで負けの重さを隣で一緒に遊んでいる人たちと分担できると負けが軽くなって受け止められたりするようになってきたかもしれません。

協力ゲームでは特に『おさかなクン』とかは非常に使いやすいですね。初めは釣り人チームかおさかなクンチームか全員一緒にチームから始めるがチーム内に対立が生まれないのでいいですね。後、魚とかに『オレンジ色だからみかんちゃんね』などと

名前を付けたり『病気のお母さんに魚を釣つて帰って食べさせてあげるんだ』などと背景をいれると、より一層

ゲームに没入できると思います。子どもってごっこ遊びとか大好きですし、そういうファンタジーが入る隙間を心の中に育ててあげる事も大事かなって思います。

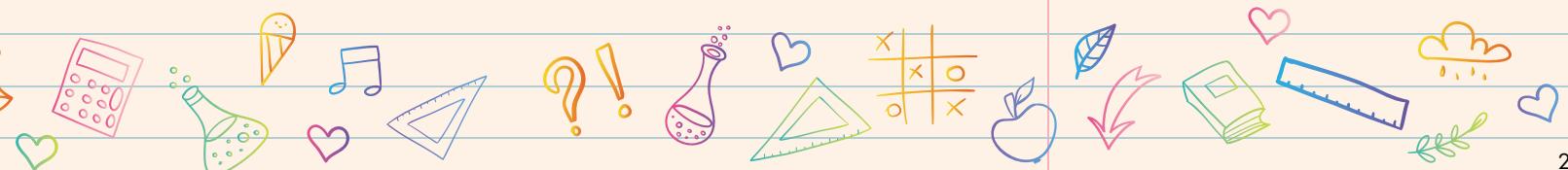
昔からそうですが、親が忙しい時はおじいちゃんおばあちゃんが孫を見るというパターンも往々にしてあります。ボードゲームをやった事がある祖父母の方だと普通に上記の様なゲームを楽しめると思うが、触れたことない場合はちょっと高くなっているハードルを下げてあげるために、たとえそんなに近くなくっても『将棋みたいな…』『神経衰弱に近いかな』『ちょっと変わったすごろくです』のように誰でも知っているゲームに例えて説明して、手番の時に選択肢がひとつふたつの時間が短めの簡単なゲームを選ぶと世代を超えて楽しめるかと思います。子どもたちが親と何回かやってルールを知って



いるゲームとかを選んで『おじいちゃんに教えてあげてね』などというと、子どもたちも『自分たちが必要とされてる!』と張り切ってつたない言葉でルール説明してくれると思います。

ドイツで保育をしていると日本と保育者に対する価値観が180度違うなと思う事があります。日本だと子どもたちの前に立って率先して子どもと遊んだりする保育士がいい先生と言われることが多いかと思います。これはドイツではダメな保育士の見本みたいな感じに受け取られます。何故かというと、園での主人公は子どもたち自身で大人はそれを陰からサポートする人というのがドイツの園の一般的な考え方です。なので、子どもたちに必要な環境(おもちゃやボードゲームなども含む)を整備するのが大人の仕事となるため、子どもの前に立って引っ張っていくことは仕事ではないという事です。

ファミリーでボードゲームを遊ぶ時も大人が率先して楽しみたい気持ちもわかりますが、最初は陰からサポートして子どもが育つところを見守る楽しさも大人が知ると、今以上に楽しいファミリーボードゲームライフが送れるのではないかでしょうか。



ファミリー DE ボードゲーム!!

DE
(Deutschland)

ちょっと聞いたヨ

子どもと遊ぶ

ヒューゴというボードゲームのお話です。メビウス創業(1993年)当時は「ミッドナイトパーティ」として店頭に並び、日本語訳にはオバケではなくヒューゴと表記されていました。2014年にヒューゴとしてリニューアルされ30年以上愛され続けているゲームです。このゲームを上手に遊んだお子さんたちのエピソードをご紹介しましょう。



3歳の幼児と小学生が一緒に遊んだ時のエピソードです。

親戚が集い、子どもたち数人でミッドナイトパーティを遊ぶことになります、しかしそのメンバーの中に3歳の幼い子がいました。さて3歳の幼子が小学生のお兄ちゃんお姉ちゃんと一緒になかよく遊べたのでしょうか?



小学生の年長メンバーたちは3歳の子に『ヒューゴちゃん』を任命したのです。ヒューゴちゃんはヒューゴのコマを動かす係です。サイコロ6面のうち2面にヒューゴが描かれ、さらにヒューゴは毎回3マス進むことができるこのゲーム、サイコロを振るとヒューゴはしおっちゅう出てきます。そのたびに「ヒューゴちゃんお願いしま～す」とみんなが言うと3歳のヒューゴちゃんはヒューゴのコマを3マス動かしてくれました。3歳という幼い子のプライドを傷つけることなく、また幼い

子特有の手番まで我慢できないという性質を上手にフォローする形で、3歳の子に役目を与えた小学生の神対応はまさに伝説です。

子どもたちがボードゲームで仲よく遊ぶことは簡単ではありません。ルールの解釈のばらつきや、負けてばかりの子の涙などゲームの進行はたびたび中断され、時に小さなけんかも勃発します。しかしそれらの経験が子どもにとっては大切な学びです。能力に差がある者同士が一緒に何かする時「みそっかす」「おまめ」「ごまめ」などと呼ばれたハンデを与えられる遊び方があります。上記エピソードではハンデではなくこのゲームに必要な一つの役割を作り出し、さらに「みそっかす」と呼ばずに「ヒューゴちゃん」と呼んであげた事も素敵だなあ～とメビウスママは感じます。囲碁の世界でも「置き碁」というハンデの与え方があるように、ハンデを上手に与え与えられて、幼い子もおじいちゃん、おばあちゃんも一緒にボードゲームで楽しい時間を過ごしていただけたら嬉しく思います。



ここでは実際のエピソードを紹介して、「子どもと遊ぶ」ことを掘り下げてみたいと思います。みんなで一緒に楽しむためのヒントがあるかも!?

箱に書かれた「対象年齢」。

この「対象年齢」、子どもと遊ぶ機会が多い方にとっては、特に目安となることが多いのではないでしょうか。買う時、遊ぶ時に大いに参考になるわけですが、しかし、この「対象年齢」にとらわれず、対象年齢が高めの本格的なゲームを楽しんでいるご家族も少なくありません。ここでは、積極的にそういったゲームを楽しんでいるご家族にお話を伺ってみました。

東京に住むきさひま親子は、お父さん、お母さん、中学生と小学校低学年の姉妹の4人家族。

ボードゲームを遊び始めた頃は「軽いゲーム」を楽しんでいたそうですが、お父さんが人気の重いゲームを遊んでみたいと思ったこときっかけに本格的なゲームを家族でも楽しむように。そんな「お父さんのちょっとしたわがまま」から始まったわけですが、今ではゲームファンでも難しいと思うことが多いような鉄道ゲーム、経済ゲームまで楽しんでいるそうです。

もちろん、工夫もしているようで、ルールの中の用語を小さい子でもわかるような簡単な言葉に言い換えたり、子どもがゲーム中に飽きないようにお父さん、お母さんは長考を控え、子どもに順番が早く回るように注意しているとのことです。

加えて「時間のない平日にルール説明とお試しプレイをして、時間のある週末に実際にゲームを楽しむ」ようにして繰り返し遊んでいるうちに、子どもたちもゲームのルールを覚えるということ自体に慣れてきたようで、今では幅広いゲームをかなりスムーズに遊べるようになったとのこと。

楽しい時間を長く家族で共有できることに加え、普段からゲームの感想やルールについてなど共通の話題で会話をすることができるようになったことも、家族で本格的なゲームを遊ぶことの魅力だと教えていただきました。

次にお話を伺ったのは沖縄のKさん親子。ここに一冊のノートがあります。沖縄のボードゲームカフェ

「サイコロ堂」に置かれたこのノートには、人気の本格的戦略ゲーム「オーディンの祝祭」が遊ばれた際の得点結果が書かれています。この中に、その親子がプレイした記録も書かれています。私がその親子のことを知ったのは、Twitterでのつぶやきでした。その日、小学校高学年だった娘さんが、お父さんにはじめて「オーディンの祝祭」で勝利したことを知らせるツイートでした。

「ルールを理解する能力や思考力、コミュニケーション力がついてくれたら」という期待はあったものの、「ゲームはなにより楽しむことが一番」と一緒に遊んでいる中での勝利だったそうです。「オーディンの祝祭」は、対象年齢14歳以上のゲームだけに細かいルールがありルール文量も多いのですが、お父さん曰く「すんなり覚えてくれた」そうで、娘さん自身も「結構楽しいな」と感じ、「運に加え実力を試されるところ。プレイに性格が出るところ」を特に気に入ったそうです。そこからはじまった親子の熱い戦い。はじめて娘に負けたその日、お父さんも感慨深いものがあったのではないかでしょうか。

さて、対象年齢にとらわれず本格的なゲームを楽しむ二組の家族のお話を紹介してきたわけですが、私からの質問で、ここまででの文中で触れてこなかったものがあります。それは「手加減したりハンデをつけたりしますか?」。それなお父さんからの回答は「一切しません」と共通したものでした。子どもも大人と対等に扱っての真剣勝負——ひょっとしたら親子でゲームを楽しむために一番ポイントとなるのは、そういうところかもしれません。

教えて! メビテンさま

コロナ禍で海外渡航が非常に厳しい中

ドイツ在住の「ふわふわのくまさん」が一時帰国。

そんな、くまさんにメビテンさまが日本入国の条件や制限の様子を聞いてみました。



くまさん、コロナ禍でドイツからの
帰国はたいへんじやったの～



コロナウイルス陰性証明の他にも
準備するものはあるのかな?

厚生労働省質問票のQRコードなの。ドイツの空港で見せるの。
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000121431_00251.html



あと、絶対じゃないけど、
飛行機やホテルの予約のプリントアウトもあるといいの。



それは骨が折れることじゃの～、
それらの準備を調えて日本に
到着してからも隔離があるんじゃよなあ～

そうなの。指定された宿泊施設で3日間過ごす
強制隔離、その後検査を受けて陰性なら、
11日間の自主隔離で過ごすの。
この14日間は公共交通機関を使っては
ダメなのふよふよ。

2週間の隔離と聞いておったが、強制隔離と
自主隔離で14日間ということじゃなあ～



他にも入国した時に入国検疫でアプリを
3種類スマホにインストールするのふわふわ、
これは強制なの絶対なのふえ～ん



なかなか厳しいの～
ところでどんなアプリをインストールするんじゃ?

それは必須かの?

ヤー
Ja ふわふわ。

実際に、
つかったのかの?

位置情報アプリ(OEL)、
ビデオ通話アプリ(MySOS)、
接触確認アプリ(COCOA)、
さらにスマホの位置情報設定
(GoogleMaps等の設定)を
するのふわふわ。



テークリッピ
毎日täglich使うの。

朝11時に厚生労働省から健康状態に関する質問メールが来て、
14時までに答えないといけないの。それから、1日1-2回OELで
位置情報確認が来て、ここにいままでアプリをアップして答えるの。そして、1日約1回MySOSから着信があって、カメラをON
にして顔を見せたり、お部屋の中を写すように言われるの。
これが14日目まで、ずっと続くの。



なんと!部屋の中まで写すのか。 たいへんじやったの～。
COVID19の感染状況は日々変化しておる。減少傾向化と思えば増加に
転じる。そして変異もする厄介なウイルス感染症じゃ。昨年のEssen
Spielはデジタル開催じゃった。2021年の今年は開催される様子じゃ。日
本から渡独するにはCOVID19陰性証明またはワクチン接種証明は必須
じゃろう。刻々と変化する情勢を見極めて渡独できたらよいな～。その時
はこのメビテンも行ってみたいの～。

今回2021年5月13日から6月22日に一時帰国されたふわふわのくま
さんに国際検疫の様子をうかがいました。様子は随時変化しています。
渡航の際には相手国、日本それぞれの防疫対策をご確認ください。

ふわふわのくま:
文字のない絵本「ふわふわのくま」の
キャラクター。ドイツ在住。twitterでは
ふわふわのくまbotとして活躍中。今年グ
ランディング社からカードゲーム発売。

Möbius メビウスゲームズ おすすめゲーム

テーマ：ポピュラーなファミリーゲーム

一同が揃ったら、幼い子もおじいちゃん、おばあちゃんも一緒に遊ぼうよ

にわとりのしっぽ

2-4人 20分 4歳~ 6,000円(税込)

デザイナー：Klaus Zoch メーカー：Zoch

1998年ドイツ年間ゲーム大賞子ども特別賞、ドイツゲーム賞子ども部門の二冠に輝いたゲームです。ルールを理解すると幼い子どもが圧倒的な強さを発揮する神経衰弱をベースにしたゲームです。

八角形のタイルは伏せて中央に置き、卵型のタイルは中央の八角形のタイルの周りに表向きに配置します。自分の手番では、にわとりのコマの前にある卵型タイルの絵柄を八角形のタイルから神経衰弱し絵柄が同じであれば、にわとりのコマは1歩前に進むことができ、さらに続けてもう一度タイルをめくってみることができます。八角形のタイルと卵のタイルの絵が一致しない場合はコマを前に進めることはできません。この繰り返しでゲームは進行し、自分のにわとりのコマが他の人のコマを追い抜くことができれば、追い抜いたコマのしっぽをもらって自分のにわとりのコマの後ろにつけることができます。自分のにわとりのコマの後ろにプレイヤー全員のしっぽをつけることができた人が勝ちになります。



この可愛いゲームをファーストゲームとして子どもに与え、一緒にファミリーで楽しむなんて、とってもオシャレ。家族でボードゲームを遊ぶことで、楽しい時間を過ごしていただければ幸いです。そしてその時間が宝物になりますように。



テンデイズゲームズ おすすめゲーム

家族で楽しむ最新オススメゲーム

ドラゴミノ

2-4人 15分 6歳~ 3,630円(税込)

デザイナー：Bruno Cathala, Marie et Wilfried Fort
メーカー：Blue Orange

2017年のドイツ年間ゲーム大賞受賞作「キングドミノ」を、より年齢の低い子でも遊びやすくした派生作が、この「ドラゴミノ」です。そしてこちらは、2020年のドイツ年間ゲーム大賞キッズゲーム部門を受賞！

タイル配置の制限を緩くしたことに加え、得点は「うまく配置できたらめくることが出来るたまごタイル」の当たり外れによる「くじ引き」方式に変更されました。この「たまごくじ引き」がとにかくエキサイティング！

大人と子どもが一緒になって真剣に楽しむことができる新たな定番作の誕生です。



おじゃまっしー

2-4人 15分 8歳~ 4,290円(税込)

デザイナー：Laurent Escoffier メーカー：Blue Orange

おじゃまっ湖で繰り広げられる怪獣たちの縄張り争い「おじゃまっしー」は、インパクト大な見た目はもちろんのこと、予想外の展開が楽しいゲームです。

プレイヤーは、邪魔し合いをしつつ、怪獣のピースを使って頭か尻尾を伸ばしていきます。どんどん行き場のなくなる湖の中で、最後まで残ることが出来たら勝利です。「高さ」の要素があることで、他のおじゃまっしーを越えて伸ばすことができ、意外な形で生き残ることも少なくありません。

運要素のないゲームですが、見た目の賑やかさと意外性によって堅苦しくなく誰でも気軽に楽しむことが出来るゲームになっています。



カルカソンヌ日本選手権2021 日本代表決定!

7月3日(土)東京・錦糸町 すみだ産業会館でカルカソンヌ日本選手権が行われました。COVID-19の影響で昨年は開催することができず2年ぶりの開催となりました。梅雨末期の悪天候の中35名の参加者が世界大会の出場権をかけて戦いました。

★優勝 望月隆史さん★

望月さんは過去4回(2014年・2015年・2017年・2019年)の世界大会出場経験があり、さらには2014年に世界大会での優勝経験もある強者です。世界大会の詳細は7月現在伝わってきませんが「開催するよ!」とメールがメビウスに届いています。

Essen Spiel 2021は10月14日~17日開催予定です。



カルカソンヌワールドカップ

The World Team Carcassonne Online Championship

チームジャパン 連覇

昨年初めて行われたボードゲームアリーナ(BGA)でのカルカソンヌワールドカップ。今年は参加国が9か国増え30か国、決勝トーナメントは12チームで戦う仕様になりパワーアップした大会が開催されました。

チームジャパンのメンバー:もちづき・ふじもと・光一・ユキ・まなお・キタラ・さとる・中川龍・should・とっキー 以上10名。決勝はロシア昨年と同じ相手との対決になりました。ロシアとしてはヨーロッパ選手権という大会でも優勝を逃しており、なんとしても雪辱を果たしたいところでしたが、日本の強さの前には叶わず、この結果から今後各国が打倒ジャパン!で向かってくることは必須のようです。

●Youtubeで、決勝戦「第2回カルカソンヌワールドカップ応援生放送」は
こちらから視聴可能です。

<https://youtu.be/3li6NECVYQk>



●カルカソンヌワールドカップ2021 日本代表サイトは
こちらから閲覧できます。

<http://carcassonne.jyoukamachi.com/member.html>

まつながのふりかえりコラム

メビテンのこちらのページを担当することになりました、まつながです。
最後のページですので、ごゆっくりとお読みください。

私は普段、ボドゲーマというボードゲーム専門の総合情報サイトを運用しております。
ひとことだけ自己紹介をいたしますと、ボードゲームが大好きです!

今回のメビテンはファミリー特集。

私はもともと関西の人間で、10年ほど前に就職を機に東京にやってきました。
ボードゲームにはまってからは、帰省の度にたくさん持ち帰っています。

母には一緒にきゃっきゃと遊べるワードバスケットやドブル、おばけキャッチを、
無口な父にはエクストリーム将棋を持って帰りました。

駒と盤の形をサイコロで決めていきなり最終局面というエクストリームな将棋です。

遊んでみると、小学生の頃は何枚落ちでも勝てなかった将棋なのに、なんともいい勝負。
将棋やすごろくのような馴染みのものをもとにしたボードゲームは、
小さい子どもや同年代とだけでなく、
新しくルールを覚えるのがちょっと億劫な高齢者の世代とも楽しみやすいですね。

コロナ禍で田舎に長らく帰っていない方も多いかもしれません、
帰省する機会があれば、

親御さんの顔を思い浮かべながらボードゲームを探し、持って帰ってみましょう。
たとえ新しい話題がなくたって、良い時間を過ごすことができますよ。



page01-02 畑 直樹(はたばー)

ボードゲームの卸Kleeblatt(クレーブラット)代表。日本とドイツでの保育経験をいかして、子ども関連の施設などで講演もさせていただいています。
kleeblatt.jp/



page10 まつなが(松永 彩)

ボードゲーム専門の総合情報サイト、
ボドゲーマの管理人。
企画や新しい機能の設計、執筆など何でもコツコツやってます。
bodoge.hoobby.net



編集後記

私が小さい頃に家族で七並べをしていた時は、なぜかカードを淡々と出すだけという単調なもので、家族以外と初めて七並べをした時に全く違うゲームでびっくりしました(な)

mebiten.jp URLが変わりました

mebitengames@gmail.com

[@mebitengames](https://twitter.com/mebitengames)

「メビテン!」を置いていただけるお店を募集しています。

編集:メビウスゲームズ、テンディーズゲームズ、
長塚美奈子

本書の無断転載・複写ご遠慮ください。